



旧藏内邸 夏の企画展

紹刺しの世界

ひとさしひとさしを針と絹糸にこめて

前田和子 作品展

2026年 6月25日(木) ~ 8月25日(火)

時間 / 9時30分 ~ 16時30分

会場 / 国指定名勝 旧藏内邸

築上郡築上町大字上深野396番地

*水曜休館

入場料 / 一般 310円 小中学生 100円



「椿」



「子とろ子とろ」(部分)



「花の舞」

第57回手工芸展 朝日新聞社賞受賞

高貴な和の伝統刺繍。 紹刺しの世界へようこそ。

■王朝人に愛された伝統の手刺繍

日本における刺繍の歴史は、古くは飛鳥時代（6世紀末～8世紀初頭）に遡るといわれます。仏教伝来とともにシルクロード経由で伝わったともいわれる刺繍は、推古天皇の時代に仏の世界を荘厳するために用いられました。日本最古の刺繍作品は聖徳太子（574～622）の死を悼んで妃の橘大郎女が作らせた「天寿国繡帳」で、国宝に指定されています。

仏教と結びつきが強かった刺繍も、平安時代（794～1185）になると公家の装飾に積極的に取り入れられていきます。『紫式部日記』や『栄花物語』には、お洒落の手段として女性たちの装束に美しい刺繍が行われた様子が記述されており、鎌倉時代中期に書かれた『筋抄』によると、男性も平緒（太刀の帯として腰に結び、一部を束帯の前方に垂らして飾りとしたもの）に唐鳥、千鳥、梅、雉、鶴、松などの刺繍を施すことがあったようです。

■紹刺しの世界

刺繍の中でも紹刺しは、3本の経糸を絡めた夏用の絹織物「三本紹」の布目に染色した絹糸を規則的に刺し埋めていく、1400年以上の歴史を持つ日本の伝統刺繍です。別名「公家紹刺し」とも呼ばれ、平安時代から江戸時代、明治時代の初めまで、宮廷をはじめ、将軍家、各大名の間で雅な手工芸として広がりました。絹糸特有の艶やかな光沢と立体感が特徴で、帯や小物に上品な華やかさを添えます。

■紹刺し作家 前田和子氏と紹刺し

伝統に基づく古風な色彩や図柄に加え、日常生活を送る中で感じる色彩の変化を積極的に取り入れた作品は郷愁を抱かせ、見る者の心を引き付けます。

ひとさしひとさしに魂を込めて紡ぐ前田和子氏の見た原風景をお楽しみください。

■紹刺し作家 前田和子氏プロフィール

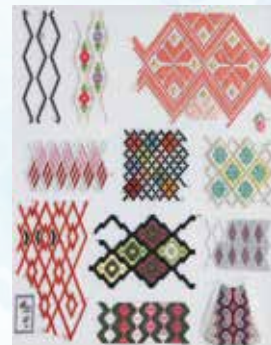
- 1942年 東京に生まれる
- 1960年 跡見学園短期大学生活芸術科入学
朝永綱子先生に師事。紹刺しを学ぶ
- 1990年 第49回 手工芸展（東京都美術館）
帯「錦秋」が一等賞を受賞
- 1991年 第50回 手工芸展（東京都美術館）
屏風「花ごよみ」が準会員の部 東京都知事賞を受賞
- 1998年 第57回 手工芸展（東京都美術館）
ついでに「花の舞」が正会員の部 朝日新聞社賞を受賞
（裏面に作品写真掲載）
- 2025年 第94回 第一美術展（国立新美術館）
半巾着「時の流れ」が優秀賞を受賞



美しい色合いの絹糸各種



アトリエで制作に励む前田和子氏



前田和子氏の紹刺し作品

アートな夏! 楽しい思い出づくり



準備した材料がなくなりだいたい終了します。
完成した作品はお持ち帰りいただけます。

押し花体験

参加費200円（別に入場料が必要）

押し花作家 新堂眞智子氏

押し花アート作品制作を体験します。
【日時】7月26日(日) 10:00～15:00

応接間等で新堂氏の押し花作品を展示中
【期間】7月23日(木)～8月25日(火)

紹刺し実演

参加費 無料（別に入場料が必要）

紹刺し作家 前田和子氏

ひとさしひとさし心を込めて紡ぐ、紹刺し作品誕生の瞬間
をご覧ください。前田氏による作品解説もあります。

前田氏による実演を見学。

【日時】8月9日(日) 10:00～15:00

